

篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠
『はじめての論理学』
テキスト採用者向け図表データ

有斐閣

この図表データは、篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠著『はじめての論理学』（有斐閣ストウディア, 2020）を大学の授業・ゼミ等にテキストとして採用いただきました先生方に限定して提供しております。講義などにぜひご活用ください。

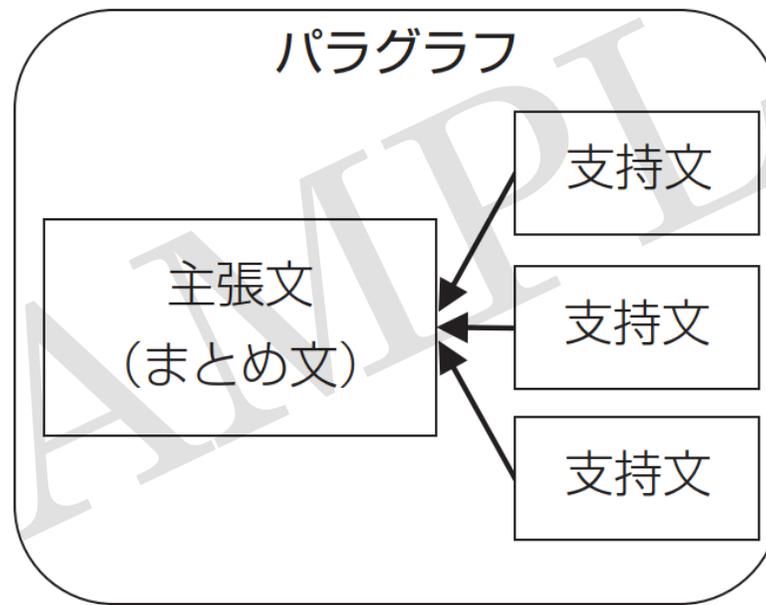
ご利用の際は以下の3点につきましてご留意いただきますよう、お願い申し上げます。

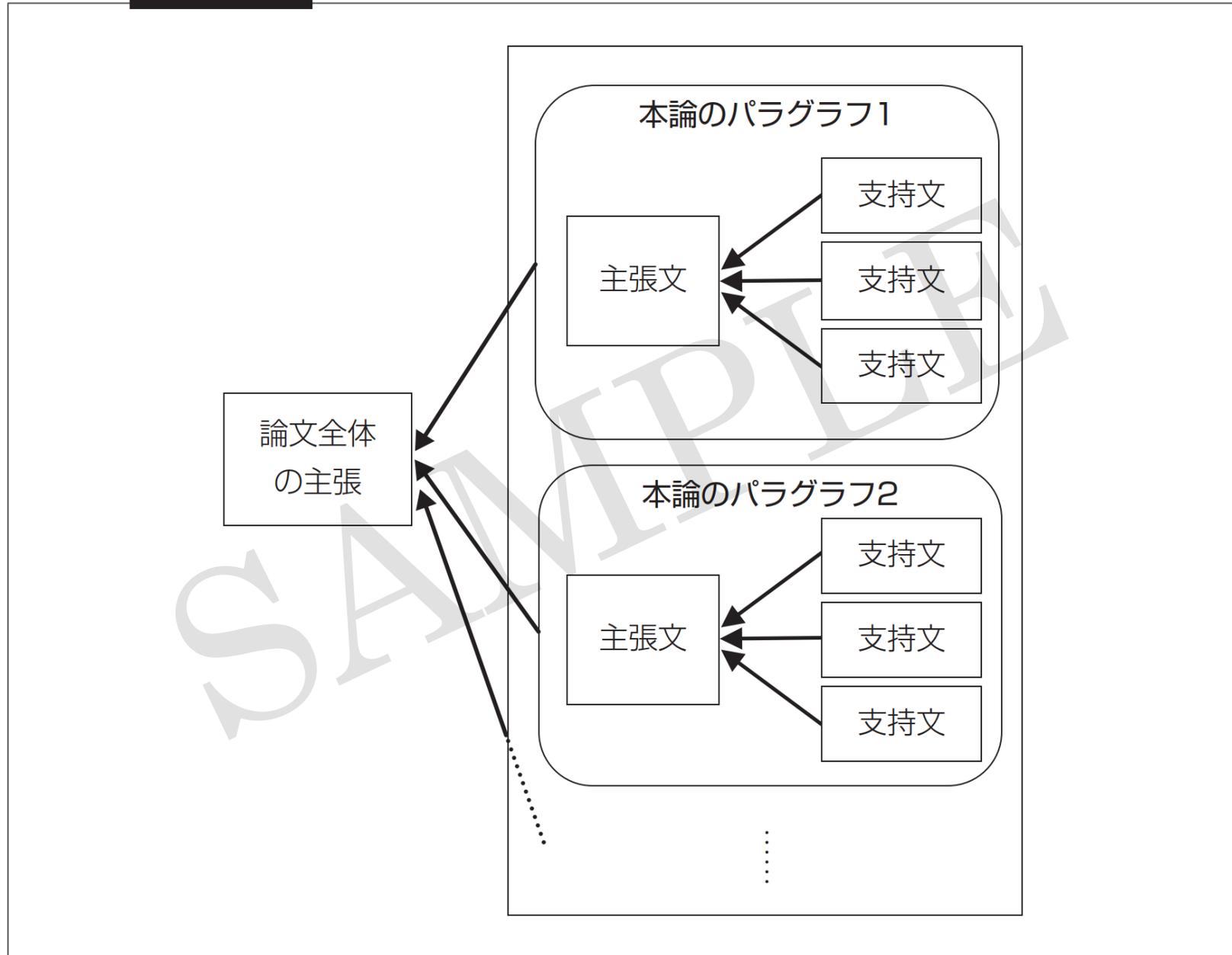
- ①本データを商用利用しないこと
- ②本データを第三者に譲渡しないこと
- ③本データを教育目的以外に使用しないこと

注意：著作権上の都合でご利用頂けない画像もございます

CHART

図 4.2 パラグラフの構造





問い： 低所得家庭の出身者に対して、大学の学費を部分的に税金で援助することは妥当か。

答え： 低所得家庭の出身者に対して、大学の学費を部分的に税金で援助することは妥当である。

1. 序論

- 問いの背景
 - 大学の学費の急騰と、学費を払うことの困難な家庭の増加
 - 「大学の学費を社会が援助すること」の是非に対する高い社会的関心
- 問いと答えの提示
- 本論の進め方
 1. この論文で検討する「大学の学費を社会が援助すること」の意味の規定
 2. 大学の学費を社会が援助すべきと考える 3 つの理由の提示

2. 本論 1： 大学の学費を社会が援助することの意味

- 学費を社会が援助することのありうる形
 - 所得による区別（全員を対象とするか，低所得者だけを対象とするか）
 - 援助額の違い（全額を援助するか，学費の一部を援助するか）
 - 資金源の違い（税金か寄附か）
- この論文で検討する対象： 低所得家庭の出身者の学費を，部分的に税金で援助すること。

3. 本論 2： 3つの理由

- A. 優秀な学生の場合

- 理由 1： 優秀な学生が大学教育を受けることによって、社会に大きな利益がもたらされる。

- 前提 1： 優秀な学生は起業などで雇用を創出する。

- 前提 2： 雇用の創出は経済を活性化する。

- 前提 3： 優秀だが低所得家庭出身の学生が起業するためには、大学で勉強することが必要。

- B. 平均または平均以下の成績の学生の場合

- 理由 2： 大学教育の機会を広く確保することは、社会階層の流動化のために必要。

- 前提 1： 社会階層が固定化すると、社会の活力が失われる。

- 前提 2： 社会階層の固定化を避けるためには、よりよい階層に進む手段の確保が必要。

- 前提 3： よりよい階層に進む重要な手段は大学教育である。

- 理由 3： 大学教育の機会を広く確保することは、社会の幸福を大きく増進させる。

- 前提 1： 大学教育は特別なものではなく、多くの職業にとって必須の条件である。

- 前提 2： 職業選択の可能性が増えることは、人々の幸福を大きく増進させる。

4. 結び

- 結論と 3 つの理由の確認
- 論じ残した点や今後の展望
 - 結論の根拠となる統計資料などのデータを十分に示せていない。
 - ありうる反論を検討することができなかった。